

サブミッションポート(Port587)の併用設定について

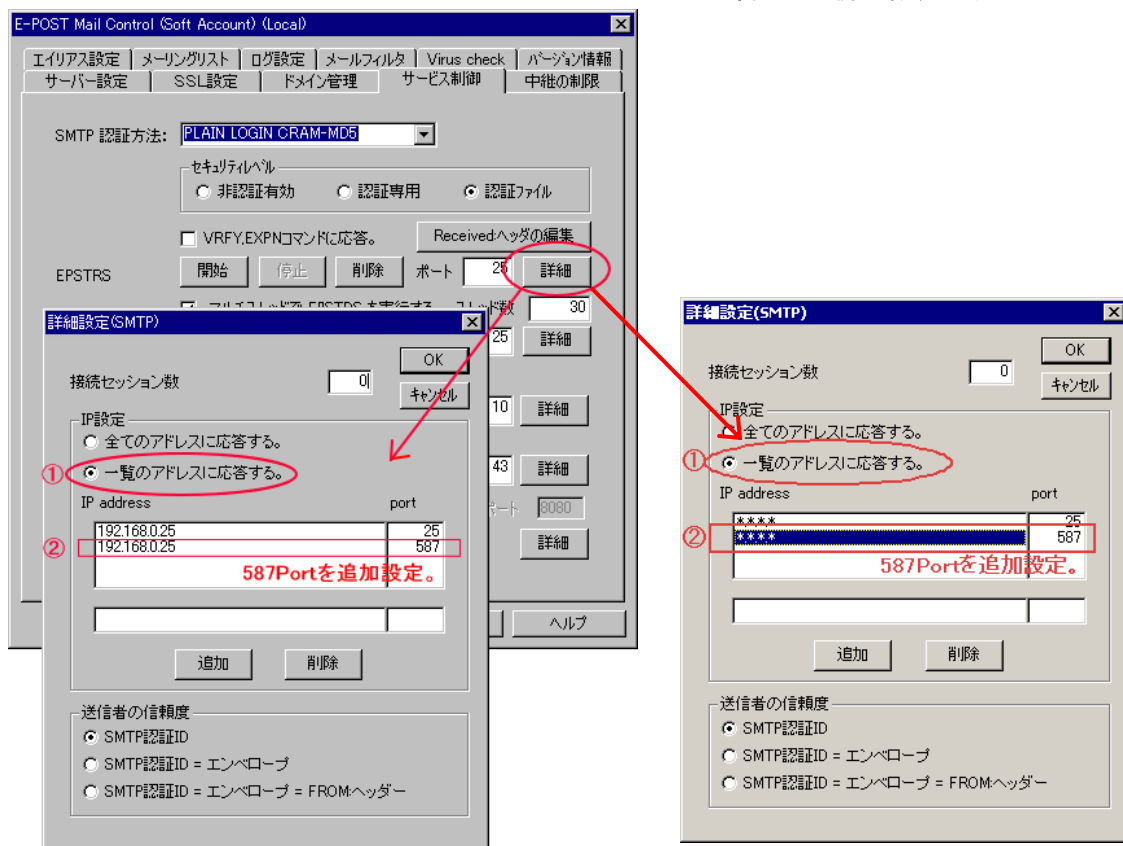
ここ数年、インターネットプロバイダが提供するインターネット接続回線について、迷惑メール撲滅を理由に、外向けのSMTPポート(25番ポート)ブロックが実施されるようになって来ています。いわゆる「OP25B」(Outbound Port 25 Blocking)の実施です。特に、固定IPではない回線、個人や小規模企業が利用する動的IPの回線でこのことが顕著なようです。

これはたとえば、固定IPの回線に接続した社内設置メールサーバで、メールクライアントが25番ポートの設定のまま社内からは問題なく送信できる一方で、動的IPの回線に接続した自宅からは25番ポートの設定では送信ができないというような状況になります。

このとき、プロバイダの提供するOP25Bが実施された回線から、直接、外部のSMTPサーバに25番ポートで接続してメールを送信することができなくなりますが、たいていの場合、代替ポートとして587番ポートでの接続が可能のように用意されているケースがほとんどです。

E-Post Mail Server/E-Post SMTP Server シリーズで、OP25Bが実施された回線から、メールクライアントからの(587番ポートによる)接続と送信命令を受けられるようにするには、下記の方法によって、25番ポートを生かした設定にしたまま、587番ポートを併用する設定にすることが可能です。

▼E-Post Mail Server / E-Post SMTP Server の 587 番ポート併用設定方法



1. E-Post Mail Control を開きます。
2. 「サービス制御」タブを選択し、EPSTRS のサービスをいったん[停止]します。
3. EPSTRS の[詳細]ボタンをクリックします。
4. 「詳細設定」ダイアログボックスで「一覧のアドレスに回答する」を選択します。
5. SMTP の接続 IP に対して 587 番ポートを追加する設定を行います。設定方法は、左のようにメールサーバマシンの IP アドレスとポート番号を指定する方法、右のようにワイルドカード表記の IP アドレスとポート番号を指定する方法のどちらも有効です。
6. 設定を確認して[OK]ボタンをクリックします。
7. EPSTRS のサービスを[開始]させて、再開します。
8. E-Post Mail Control を閉じます。

上記のようにサーバ側を設定した後、メールクライアント側の SMTP サーバのポートを 587 番に変更します。その結果、外向けの 25 番ポートをブロックしているプロバイダの回線から、587 番ポートを使ってのメール送信が可能になります。もちろん、ルータやファイアーウォールなど、ネットワーク経路内で 587 番ポートが通信可能な状態であることが前提となりますので注意してください。